

研究の概要

20 20 年 11 月 5 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	胚質不良例に対するカルニチン・メラトニン併用投与の有効性に関する検討
代表研究者 (所属・氏名)：	IVFなんばクリニック 培養環境部門 西原卓志
研究の目的：	胚質不良例に対し、ミトコンドリアでのエネルギー産生に重要な働きを示すL-カルニチン、脳の松果体から分泌されるホルモンの1つで抗酸化作用を有することが明らかとなっているメラトニンが、それぞれ単独投与で受精率の改善や胚の質を向上させることが我々の検討で明らかとなっています。しかしながら、単独投与では改善がみられず妊娠に至らない症例も散見されます。そこで今回は、体外受精胚移植における治療成績をさらに高めることを目的とし、カルニチン・メラトニン併用投与の有効性を明らかにする目的で検討を行いました。
調査データ該当期間：	20 15 年 4 月 ~ 20 19 年 7 月
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	体外受精を実施し胚質不良が疑われた88症例88周期(平均年齢38.3±4.2歳)の患者様を対象に、Lカルニチン1,000mgとメラトニン3mgを採卵前日まで投与し、両サプリメントの投与前と投与後の周期において成熟率、受精率、胚の質の評価(胚スコア)を比較します。また、服用前の周期で得られた胚を移植するも妊娠判定陰性または化学的流産となり、再度採卵を実施した52例に対し、両サプリメントを投与しその後の妊娠の有無を確認します。
個人情報の取り扱い：	成熟率、受精率、胚の質の評価、妊娠の有無のデータのみを扱い、個人が特定されることはありません。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	IVFなんばクリニック 06-6534-8824 培養環境部門 西原卓志
備考	